

ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町

町長 三村 裕史



平成22年の書き初めに合わせて募集いたしました「第20回ふれあい書道展」が、全国の書道愛好家の皆様のご理解とご協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町は約180年の歴史を持つ伝統的工芸品「熊野筆」で知られる「筆の都」です。町内には筆づくりの事業所が今なお数多く存在し、書道用の毛筆はもちろん、画筆、化粧筆など、国内の筆生産の約8割を占めています。

本町は、昭和6年から小・中学生を対象にした全国書画展覧会を運営しており、書写・書道及び図画工作・美術教育の振興を通じ児童生徒の表現力や鑑賞の力を伸ばすとともに、我が国の伝統文化に対する理解を深めることに大きく寄与してまいりました。

このふれあい書道展は、平成11年本格的な生涯学習時代を迎える21世紀に向けて、心豊かで充実した人生を送れる社会を築いていくために、子どもから高齢者まで幅広い層を対象にして、書に親しみ、筆を持つ喜びを多くの方に味わっていただくことを目的に始めました。筆から生まれる文化の振興と交流に努め、そうした取組みの中でふれあい書道展も全国的な展開を進めています。

「筆の都 熊野町」は、昨年「春分の日」を「筆の日」と定めて、その前後1週間を筆の日週間として、筆に関連した様々なイベントを行っています。2年目の今回は、この書道展を、熊野町役場エントランスホールで行い、筆文化を全国に発信する中心的行事として、多くの方で賑わいました。

終わりにになりましたが、この展覧会を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、ご挨拶といたします。

第20回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会

委員長 宗 盛 勝 則



誰でも、いつでも、どこでも、筆を持ち、書に親しむことを目的に始めてまいりました「ふれあい書道展」が20回を迎えることができました。

2年ぶりに冬期応募を行いました今回も、全国の福祉関係施設や公民館、書道塾など多くの方々から、たくさんの力作が寄せられ、盛大に展覧会を開催することができました。

今回の書道展には、全国47都道府県の840団体から8063点もの作品が届きました。最年少は3歳から107歳の最高齢の方まで、本書道展にふさわしい実に幅広い出品者がありました。中でも、60歳以上の方々の作品が約6割で、生涯にわたって書に親しまれている様子を伺うことができました。

審査長は、元文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤祐司先生、現文部科学省教科調査官で東京学芸大学准教授の加藤泰弘先生にご依頼し、丁寧に選んでいただきました。

また、展示は熊野町役場エントランスホールにて、3月16日から22日までの1週間、「筆の都 熊野町」の筆の日週間行事として開催し、広島県外からも多くの方々にご来場いただきましたことを感謝申し上げます。

本書道展は、高齢者や初心者を中心に、出品者全員に自分の作品の画像が入った賞状を贈呈します。また希望者には、掛け軸や自分の作品画像入りの表彰楯やキーホルダーなど、オンリーワンの記念グッズを有償で提供もしています。

筆を持つ機会がある度に作品を残され、次回の展覧会にも是非とも出品いただければ幸いです。書を通じてたくさんの仲間との出会いと交流が始まることと思います。次回も力作をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

第20回ふれあい書道展入賞者一覧

賞 名		賞数	半紙	条幅	変形
特別賞	広島県知事賞	4	2	2	
	広島県議会議長賞	4	2	2	
	広島県教育委員会賞	4	2	2	
	熊野町長賞	4	2	2	
	熊野町教育委員会賞	4	2	2	
	熊野町商工会長賞	4	2	1	1
	熊野筆事業協同組合理事長賞	4	2	2	
	シルバー大賞	3	3		
	キッズ大賞	3	3		
	小 計	34	20	13	1
筆 都 大 賞		128	83	41	4
特 選		1,766	1,409	145	212
奨 励 賞		4,370	3,405	445	520
敢 闘 賞		1,765	1,278	219	268
合 計		8,063	6,195	863	1,005

第20回ふれあい書道展出品者年齢別構成表

(単位:人)

